

株主・投資家の皆様へ

平素より弊社グループに多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

2011年3月11日14時46分に、東日本大震災が発生しました。それは、一昨年私どもが大幅な赤字を出したことへの株主の皆様に対するお詫びと共に、どのような想いで経営判断をしてきたかについてのご理解を賜りたいと、皆様へのお手紙を書いていた時期でした。

V字回復のため、社員一丸となり活動を始めた矢先の出来事で、できる限りの情報を集めるため、東北のお客様のところへ慎重に慎重を重ね、寸断された道を避けながら、社員が訪ねました。津波の後片付けを少しずつ始められたお客様。事務所ごと津波に流されたお客様。不幸中の幸いでご担当の方々は全員無事との報告が届いたのは、震災から2週間後のことでした。同時に、社員の親族の方々の無事の知らせも届きました。

未曾有の災害にあたり、今私どもがお応えすべき社会ニーズは何か？を、私なりに考えに考え抜きました。被災地では、寒いなかで暖も取れず、水も飲めず、食事もなく、電気も通信も途絶え、排便もままならない日々が続きました。3日経てば何とかかなと思っていた人が多かったと聞きます。しかし、2ヶ月、3ヶ月経っても体育館などの避難所でダンボールで囲われながらの暮らしが続きました。

このような現実から見てきたのは、人間の尊厳をいかにして守るか、という社会的課題の重要性です。エネルギー問題、資源問題、食料問題という未来の課題と人の孤独化問題、高齢化問題、少子化問題という今現在の問題と、地球が抱える課題の両方をこの国が持っています。

このような社会的課題を解決する企業活動が今こそ重要になってきたと私は考えます。公的セクターしか社会保障ができないのか？という疑問に対して、「民間」が社会課題を解決するという仕組みが、これからは必要になっていくと思います。これは、新しい公共という概念です。そのリーダーシップを社会的企業群がどこまで果たせるかが重要です。こうした社会的課題解決型企業が日本で増えれば、この国は世界に胸を張れると思うのです。

弊社は、創業以来このような社会的課題に挑戦してきました。無価値とされていた廃棄物を正確且つ多面的に分析し、そこに有用な価値を見出し再資源化を進めてきました。つまり、廃棄物を資源化し再利用すれば埋立最終処分地が延命し、地下資源の採掘可能年数も延びます。私どもは、それ故に、「未来の資源」を救済することを事業化してきたのです。そして、企業の環境リスク低減を事業化した「環境ソリューション事業」を推進しつつ、未活用の自然を利活用する「自然再生事業」にも取り組んできました。企業は、CSRの概念だけに頼れば、「儲かってから社会に還元しよう」という慈善活動になってしまいます。当社は本業そのものが社会的性格を帯びており、売上が伸びれば伸びるほど「未来のリスクを低減」できる企業です。アマタがミッションとして持続可能社会の実現を掲げているのは、当社が大きくなればなるほど持続可能社会に近づけるということを意味しています。

そして、私どものように、大事なお客様の環境リスク対策を講じている企業が、本社機能を東京一極に集中することは、万が一の際にお客様にご迷惑をおかけするというこ

とをこの震災から学び、本年1月より本店は東京に残しながら、本社機能を京都におくことで、リスク分散を図りました。

この課題先進国に生まれたものの責務として、一番の社会ニーズである「社会的課題を解決する事業」にこれからも邁進する所存です。

今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

平成24年3月27日



アマタホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

熊野 英介

尚、東日本大震災にて被災された地域の皆様並びに関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。